

事業の背景・目的

スイゲンゼニタナゴは、これまでも市民団体等による保全活動や保護・増殖活動が継続して実施されてきたが、野外で確認される個体数は減少傾向にあり、用水路の改修等人間の営みが豊かになるにつれ、その生息状況は年々悪化しているという状況にある。芦田川水系のスイゲンゼニタナゴ個体群が健全かつ安定的に生息する状態を目指すには、個々の取り組み以上に有識者や保護増殖機関、行政、そして地域住民が連携し保全活動に取り組んでいく必要がある。このため、協議会を設立し保全活動計画をもとに複数の主体が連携することによる生息環境の維持管理やパトロール監視作業、域外飼育による系統保存、普及啓発活動等の様々な活動の展開を目指している。

事業の内容

事業① 生息地の保護・改善・再生事業

- ・スイゲンゼニタナゴ産卵母貝調査等生息調査の実施
- ・スイゲンゼニタナゴ生息状況調査の実施
- ・先進地視察（イタセンパラシンポジウムin淀川）

事業② 生息環境の維持・管理・監視事業

- ・協議会総会の開催
- ・学識経験者による技術的検討会の開催
- ・芦田川水系生息地浚渫工事
- ・生息地周辺のパトロール及び生息環境の維持管理作業の実施

事業③ 保護増殖事業

- ・スイゲンゼニタナゴ生息施設の環境改善工事の実施
- ・スイゲンゼニタナゴ生息施設の整備実施



事業④ 普及啓発事業

- ・スイゲンゼニタナゴの企画展の開催（図書館・動物園の計2回）
- ・先進地視察（第68回魚類自然史研究会）
- ・広報テレビでの周知
- ・啓発用看板の設置作業

得られた成果

スイゲンゼニタナゴの保全活動においては、生息状況が依然として危機的な状況にあることから、現行の保護増殖機関における飼育繁殖を継続するとともに新規で保護増殖に携わる機関と連携し、系統保存の充実を図る。現在の生息環境を維持改善していくことで、野生個体数の増加を期待できるような取り組みについて議論していきたい。万が一、市内水域において野生個体群の確認ができない場合は、専門家による十分な環境調査、議論を重ねた上で再導入についても視野に入れる。再導入にあたっては、段階的な飼育を実施することで再導入後の個体再生産が可能かどうかを見極める必要がある。そのために、必要な施設および水路について改善・整備を進めていく。野生環境におけるスイゲンゼニタナゴの生息状況の把握のためのモニタリング調査については、環境DNA技術を用いて実践可能かどうか手法の検討を行う。現状では、目視および捕獲調査による個体確認が行われているが調査地点がある程度固定されているため、次年度以降、他水路における生息状況の確認についても実施を検討していく予定である。また、啓発活動についてもシンポジウムの開催等あらゆる手段を用いて実施していく。